

実践報告5

タブレット端末を活用した「話すこと [発表]」の評価について

愛知県立惟信高等学校 教諭 久納 知幸

1 はじめに

来年度から評価の観点が生三つに再編される。その中の「思考・判断・表現」を適切に評価するためには、言語活動やパフォーマンステストの更なる充実が必須である。一方で、「話すこと」のパフォーマンステストは、他の技能と比較して、実施に時間がかかることが難点だという課題が本校の教科会で指摘された。そこで、タブレット端末の活用がこの課題に対する解決策として有効であるかについて、実践を通じて検証を試みた。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：GROVE ENGLISH EXPRESSION II（文英堂）

イ 単元：SECTION 4 プレゼンテーションをしよう

(2) 単元の目標

与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	身近な話題や社会的な話題に関する会話やスピーチを聞いて、概要を理解することができる。
話すこと [発表]	身近な話題や社会的な話題について、自分の意見を論理的に述べることができる。
書くこと	自分の意見や感想を論理的に整理し、段落構成を意識して書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表]	<p><知識> 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。</p> <p><技能> 日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えてようとしている。</p>

書くこと	<p><知識> 自分の提案を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解している。</p> <p><技能> 日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）について、自分の提案を、論理の構成や展開を工夫して適切に書く技能を身に付けている。</p>	<p>日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、論理の構成や展開を工夫して適切に書いて伝えている。</p>	<p>日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、論理の構成や展開を工夫して適切に書いて伝えようとしている。</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
1	<p>【ねらい】 単元の目標を理解する。 マイクロツーリズムについて理解する。</p> <p>【学習活動】 ①マイクロツーリズムについて書かれた記事を読む。 ②記事を読んだ後に、記事の要点を正しく理解していることを確認する。</p>				事前に読む目的を示して、記事の要点を理解させる。
2 3	<p>【ねらい】 旅行の素案（場所と活動内容）を作成する。</p> <p>【学習活動】 ①観光客役を務めるALTが書いた旅行要望書を読む。 ②ALTに質問をして、回答を企画に生かす。 ③愛知県の観光情報を調べながら素案を作る。</p>				タブレットや愛知県観光協会が発行している資料の利用を促す。 企画する上で、マイクロツーリズムの理念とALTの要望に応えることを意識させる。
4 5	<p>【ねらい】 プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>【学習活動】 ①モデルプレゼンテーションを鑑賞して、効果的に発表するための工夫を見つける。 ②採点の規準を確認する。 ③発表原稿を作成する。 ・訪問地とそこでできること ・企画のねらい ④パワーポイントでスライドを作成する。</p>	○	○	○	作成した原稿を回収し、英語使用及び表現内容の適切さを中心にルーブリックを用いて評価する。 フィードバックを与え、原稿の修正を促す。 準備の進捗状況によって、④を省いてもよい。

6 7	<p>【ねらい】 プレゼンテーションを練習する。</p> <p>【学習活動】</p> <p>①ペアでプレゼンテーションをし合う。 ②聞き手は聞いた内容について感想や意見を伝えたりする。 ③目標の達成状況を振り返り、課題を明確にする。</p>				<p>ペアで相互に評価し合いながら、よりよい発表を目指させる。</p> <p>ルーブリックを事前に提示して、観察したり評価したりする観点を確認させる。</p> <p>ペア活動の中にALTも入り、適宜フィードバックする。</p>
後日	パフォーマンステスト	○	○	○	英語使用及び表現内容の適切さを中心にルーブリックを用いて評価する。

6 パフォーマンステスト

次の指示文を配付する。生徒は 20 分の準備時間内に話す内容についてアウトラインやメモを作成することができる。

ALTに①誕生日プレゼントとして贈りたいものを示して、②それをどうして選んだのか、③それをいつ、どのように使用、若しくは、利用してほしいかの3点について、1分程度で話して伝えましょう。準備時間は20分です。メモを用意して、必要に応じてメモを参照しながら話しても構いません。また、下記の資料を活用しても構いません。

ALT's information

She likes ...

- ① having local food.
- ② taking a picture for "Instagram".
- ③ buying cool or cute souvenirs.
- ④ taking a train.
- ⑤ seeing green (trees, fields) .
- ⑥ learning Japanese history.

(1) 実施方法

- ① 生徒一人一人にタブレットを配付する。
- ② 発表する生徒はタブレットに向かって話して録画する。

(2) 指導上の留意点

生徒に採点の基準を事前に提示する。

7 ルーブリック

(1) 評価方法

録画したものを視聴して、採点の基準に沿って評価を行う。

(2) 評価の領域（内容のまとめ）：「話すこと〔発表〕」

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：贈りたい誕生日プレゼントを示している。
条件2：なぜ贈りたいのか理由を述べている。
条件3：プレゼントをいつ（若しくは）どのように使用若しくは利用してほしいのかを述べている。

「思考・判断・表現」については、三つの条件を全て満たしていれば「b」（おおむね満足できる）としている。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 語彙や表現が適切に使用されている。 聞き手に分かりやすい音声等で伝えている。 	聞き手に納得してもらえるように、三つの条件に基づいて、自分の考えを適切に伝えている。	聞き手に納得してもらえるように、三つの条件に基づいて、自分の考えを適切に伝えようとしている。
a (5点)	<ul style="list-style-type: none"> 語彙や表現が適切に使用されている。 聞き手にとって分かりやすい音声等で伝えている。 	三つの条件を満たしながら、具体的に述べたり、効果的に伝えたりしている。	聞き手に配慮しながら、話す速さ、声量、表情、アイコンタクト、身振りなどを意識して伝えている。
b (3点)	<ul style="list-style-type: none"> 多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 理解に支障のない程度の音声等で伝えている。 	三つの条件を満たしながら伝えている。	ぎこちなさもあるが、聞き手に対して粘り強く伝えようとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

※「おおむね満足できる」状況をbとする

8 実践報告

(1) 単元構想

本単元ではスピーチやプレゼンテーションなどの発表活動を主として行うことが意図されている。しかし、教科書では発表活動の目的・場面・状況に関する記述は特にされていないため、それらを自ら設定する必要があった。さらに、相手の興味や要望にも配慮しながら主張したり提案したりすることも発表内容の質を向上させると考えた。以上に基づいて、教科書の内容と生徒の興味や関心を踏まえた結果、①「旅行プランの提案」②「誕生日プレゼントの紹介」の二つを生徒に行わせることを計画した。なお、①を課題の提示から発表までの一連の活動について練習したり指導したりするための言語活動として、②をパフォーマンステストの課題として設定した。

(2) 実践の詳細と考察

本単元の導入として、近年注目されている「マイクロツーリズム」についての理解を深めることから始めた。株式会社星野リゾートのホームページによると、「マイクロツーリズム」とは、「遠方や海外への旅行に対し、3密を避けながら地元の方が近場で過ごす」ことを掲げた旅行スタイルとされている。この旅行業界のトレンドを生徒に紹介するために、平易な英語で書かれている「JAPAN WIRELESS」の記事の一部を読ませた。その後、今後の活動の概要と目的を伝え、自分が担当する地域（尾張・西三河・東三河）をくじ引きで決めた。また、ALTには自分の好みなどを含む要望書を

事前に書いてもらい、それを生徒に配付した。生徒はALTの書いた要望書を熱心に読み、さらに聞きたいことがあれば、ALTに直接質問していた。旅程を立てるための資料としては、愛知県観光協会が発行している大判の地図を配付したほか、タブレットの使用を許可した。生徒の活動の様子を見ると、生徒たちはアナログ資料とタブレットで検索できるデジタル資料をそれぞれ相補的に活用しているようであった。具体的に言えば、一つの資料を基に他の生徒と話し合うのには大判の地図が向いている一方で、自分の調べたいことがすぐに調べられるタブレットは検索性において秀でているようであった。授業では話し合いながら考えることを許可したので、生徒は他者の意見も参考にしながら、旅程を立てていた。

自分の提案の要点をまとめた企画書を作成した後は、一度、モデルプレゼンテーションを鑑賞して、プレゼンテーションの構成、表現、音声上の留意点、発表態度を確認した。生徒からは「数字を活用することで訪問地がもつ魅力を具体的に伝えていること」や「言葉で伝えづらいことでも動画を使って分かりやすく伝えていること」などが自分の発表に取り入れたい点として挙げられた。その後、ルーブリックの各採点の規準の「a」評価について、具体的に何ができていれば「a」評価とすることができるのか、生徒に考えさせて意見を募った。その結果、私が最初に用意した「自分の提案を詳しく述べたり、効果的に伝えたりしながら、三つの条件を満たした提案をしようとしている」という「主体的に学習に取り組む態度」の記述語を「聞き手に配慮しながら、話す速さ、声量、表情、アイコンタクト、身振りなどを意識して伝えている」へと具体化させることができた。また、生徒は何かできればよいのかを理解した上で、発表の質の向上に励むことができた。なお、プレゼンテーションの練習をさせる前に発表原稿を一度提出させて、適宜フィードバックを記した上で、各生徒に返却した。

プレゼンテーションの練習はペアを替えながら複数回行わせた。一人が事前に用意したパワーポイントの資料を見せながら発表を行い、もう一人はペアの発表を聞いた後で感想や意見を伝えた。生徒たちは意欲的に取り組んでいたが、手元に原稿があったために、それからなかなか目を離せずに発表してしまう傾向が目立った。また、パワーポイントの操作に注意が向いてしまい、肝腎な英語の方への意識が十分に向いていない様子も見られた。このような状況に加えて、欠席者に対する配慮という観点から、練習時間を二時間設けることになった。パワーポイントを活用した発表自体は聞き手に配慮された理想的な言語活動であるが、英語による発表とパワーポイントの操作というマルチタスクに対する生徒への負荷も考慮して、まずは言語使用に重点を置いて指導するなどの段階的なシラバスを構想することが大事であると実感した。

(3) 成果と課題

パフォーマンステストはタブレットで録画した発表動画を **Microsoft Teams** にアップロードするという形式で行った。タブレットを用いた発表は私にとって初めての試みであったため、想定していなかったトラブルもあったが、生徒たちの取組は良好であった。よかった点としては、①同時に多人数が発表することができること、②時間内であれば生徒は何度も録り直すことができるため、よりよい発表を録画して提出しようとする主体的な態度を引き出すことができること、③録画した発表を教員は何度でも聞き直すことができるので、評価の信頼性を高められること、④複数の教員で同じ動画を視聴して採点の規準をすり合わせることで、評価の信頼性を高められること、⑤優れた発表を保存しておくことで、生徒にそれをモデルパフォーマンスとして提示することができることなどが挙げられる。もともとパフォーマンステストの時短を目指して行った本研究であったが、タブレットの活用は予想以上の副産物をもたらしてくれた。一方で、留意点として、①タブレット自体に不具合があると、

テスト自体を別日に行わないといけなくなること、②発表者の直前にタブレットを置かないと発表者の音声を拾わないことなどがあると分かった。

また、前述のループリックを用いて評価した結果、以下に示す結果となった（単位：人）。

評 価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a (5点)	7	13	10
b (3点)	24	11	24
c (1点)	3	10	0

ア 知識・技能についての考察

平均は3.2点であった。音声による課題の提出であったため、適切な語彙及び文法の選択については評価が難しかった。一方で、録音した発表を複数回聞き直すことができたことで、一度聞いただけではよく分からなかった細かいところまで確認することができた。それよりも、発音が不明瞭で分かりづらかったり、英語の音声上の特徴を表現できていなかったりすることが目立ち、中には「b」の条件を満たさなかった発表が少なからずあった。しかし、音声上の課題がある発表でも内容の理解に大きな支障をきたすほどではないと判断できる発表も多かった。

イ 思考・判断・表現についての考察

平均は3.2点であった。事前に提示した三つの条件への適合性と内容の結束性や一貫性などの論理性で評価を行った結果、おおむね等しく三段階に分かれる結果となった。「c」評価の生徒の特徴として、ALTに贈る誕生日プレゼントをどのように使用若しくは利用してほしいかについての言及がないことなどの条件との適合性に難点があったことが挙げられる。一方で、「a」評価をした生徒たちは、単に条件を満たすだけでなく、資料を基に深く考えており、発表内容が論理的に優れていた。今後も生徒たちの思考を促す課題設定を心がけるとともに、結束性や一貫性などをパラグラフ・ライティングと関連させながら、指導していきたい。

ウ 主体的に学習に取り組む態度についての考察

平均は3.6点であった。生徒たちは皆熱心に取り組んでおり、言いよどんでも何とか表現しようとそれぞれに努力していた。このことから、「c」評価をした生徒はいなかった。本観点は思考・判断・表現と一体的に評価してもよいとされているが、思考・判断・表現が「c」評価になってしまう生徒でも、主体的な姿勢や態度については「おおむね満足できる」程度には見られた。安易に「c」評価を付けてしまわないように、言語活動中の生徒の様子に注意を向けたい。

9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）『学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編』
- ・国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』
- ・星野リゾート「星野リゾートのマイクロツアーリズム ご近所旅行のススメ」
<https://www.hoshinoresorts.com/sp/microtourism/>（最終閲覧日 2021年9月1日）
- ・Hiro.K…（2021）“3 Best Things to Do in Kiryu, Gunma”
<https://jw-webmagazine.com/best-things-to-do-in-kiryu/>（最終閲覧日 2021年9月1日）
- ・国際プレゼンテーション協会「プレゼンテーションとは」
<https://npo-presentation.org/about/>（最終閲覧日 2021年9月1日）

【別添資料】生徒用ルーブリック

A L Tに対して、①観光 ②体験 ③食事の要素を含むマイクロツアーの旅程を1分程度で話して提案しましょう。メモを用意して、必要に応じてメモを参照しながら話しても構いませんが、原稿を書くことはできません。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	活動に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手に分かりやすい音声等で伝えている。 	<u>自分の提案を詳しく述べたり、効果的に伝えたりしながら、三つの条件を満たした提案をしている。</u>	<u>自分の提案を詳しく述べたり、効果的に伝えたりしながら、三つの条件を満たした提案をしようとしている。</u>
b	<ul style="list-style-type: none"> ・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で伝えている。 	三つの条件を満たした提案をしている。	三つの条件を満たした提案をしようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

※「おおむね満足できる」状況を b とする

Q. 具体的には何ができていれば「a」評価になると思いますか。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	活動に取り組む態度
a			

Class	No.	Name
-------	-----	------